≪全国の火山活動文案の検討≫
・岩手山のGPSでは大きな変化なし。
・磐梯山。１回の微動だけで注目することはないが、いずれにしても終息方向ともいえない。気象庁GPSの伸びは季節変動の可能性がある。

4）富士山

≪資料の説明≫
①気象庁
・低周波地震活動、１月には少なくなった。先日山体内で高周波地震があった。S-Pは山頂で0.5秒くらい。単発で、これまでも一年に数個くらいはあったものだ。
②防災科研
・低周波地震が10～12月に多発。傾斜計に変化はない。山体内で地震あり。
③地調
・富士山の地質調査の計画あり。
④小山臨時委員
・アンケート結果の紹介。

5）九州の火山

≪資料の説明≫
①気象庁
・開聞岳で噴気が見つかった。温度は低く、火山性ガスも見られなかった。諏訪之瀬島山頂で新たな火口から噴火。
②海保
・薩摩硫黄島の全磁力観測結果。カルデラ縁に磁気異常。
③地調
・富士山の地質調査の計画あり。

6）硫黄島

①防災科研
・硫黄島、１日にすり鉢山の噴気量増大と亀裂の拡大が観測された。
②地理院
・昨年９月１日頃からGPS基線の傾向が変わった。上下変動も沈降から隆起に。

5．その他

・富士山の活動について

①富士山の低周波地震活動について
・マグマの活動の関連も可能性あるが、浅い地震活動や地殻変動もなく、噴火は差し迫っていない。
②防災科研
・低周波地震活動後、東海地震固着域の地震活動の静穏化に変化、地殻内地震がより静穏化、スラブ内地震は静穏化が解消した。
③気象庁（事務局）
・富士山については、何らかの連絡体制のスキームを作り、観測も行う。アクションプランも考えたい。3月くらいにまた相談したい。火山噴火予知連絡会で勉強することも検討していく。

火山噴火予知連絡会幹事会　議事録

日　時：平成13年5月28日（月）11時00分～12時55分
場　所：気象庁防災会議室
出席者：幹　・事：井田、岡田、浜口、藤井(敏)、渡辺、藤井(直)、石原、布村、須田、竹内
　　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：吉田（文科省）
　　事 務 局：内池、小宮、中禮、山里、土井、林、高木、横田

1．情報公開について

・４月に情報公開法（行政機関の保有する情報の公開に関する法律）が施行され、行政機関の保有する行政文書は原則開示することになった。気象庁内で検討を行った結果、火山噴火予知連絡会の議事録及び各機関から提出され事務局として保有している資料は、開示請求があれば原則として開示することにした。
・今後の資料については、開示されることを前提に、誤解がないような説明を入れる等の注意をし、また一方で、防災にからむ議論が自由に行えるよう、資料については、慎重に取扱うことにし、会議時に開示されることについて、各機関の了解を得ることとする。

2．有珠山部会の廃止について

・火山活動の検討を受け、有珠山部会は廃止する。有珠山の活動は完全に停止したとは言い難いが、連絡会の場で全国の活動評価をする際に有珠山を取り上げて、概ね活動が終息したことを述べて、部会を閉じる方針を連絡会に提案する。

3．富士山WG

・富士山で低周波地震が増加している。富士山について、1）火山活動の評価と適切な防災対応のために基礎データを整理すること、2)予知と防災に関する情報の発信について方策を検討すること、3)監視強化のあり方の検討と監視体制についての調整、の3本柱とするワーキンググループ（WG）を設置することを連絡会に提案する。座長は、藤井(敏)委員、メンバーは今後調整、砂防関連委員や現委員以外も視野。

・科学技術・学術審議会測地学分科会火山部会で観測研究体制の検討中。内閣府では、ハザードマップを作成に向け準備中であり、これらの結果や動きを見ながら連携して進める。

・ハザードマップ検討委員会の動きの紹介。防災機関の希望としては、予知連には、富士山についてシナリオ・規模等のデータを出していただければ幸い。静岡県では情報伝達訓練が実施された。山梨県でも富士山火山総合防災訓練を予定している。検討委員会については、できれば早めにアナウンスをしたい。協議会開催は6月、委員会は７月を予定。(内閣府)

・測地学分科会火山部会で、火山噴火予知計画の強化の一環として、富士山の当面3年の観測研究の強化の報告書を作成中。(文科省)

・本WGは、コアメンバーだけを決めて、後は自由参加とする。コアメンバーで現委員以外は臨時委員に委嘱する。

・実際の運営は、ハザードマップ委員会等の動きを見ながら進める。

（質疑）

・富士山の情報発表基準は決まっているか。

・厳密には決まっていない。現在は浅部地震の多発等を重視して監視しているが、状況を見ながら検討することになるだろう。WGでの議論も参考にしていきたい。(事務局)

・関連して、火山活動レベル化の現状は如何に。

・近々、５火山について、部内試行を予定。(事務局)

・富士山の情報発表官署はどこか。

・本庁地震火山部である。静岡地方気象台と甲府地方気象台が情報を県へ伝達することになっている。通常なら、両地方気象台が情報発表するのだが、富士山の特例として、気象庁地震火山部が情報発表する。今後、火山監視・情報センターができた後は、他の火山同様に、センターが情報作成することになる。発表官署を現地と連名にするかどうかなどは、まだ決まっていない。(事務局)

4．連絡会会議の効率化について

・連絡会の会議が毎回長時間になっており、短縮できないかという意見が強いことから、事務局で、資料説明時間を短縮するための４項目の提案を作成した。

1)今後は、気象庁資料の素案（「全国の火山活動」文案を含む）をできる限り早めに作成し、委員へ送付、事前に検討する。

2)重点的に議論すべき火山については、事前に問題点についてメールによる意見交換をし、可能であれば、最終段階で見解案を提示して意見を求める。

3)各機関においては、事前に機関内で十分に議論し、できる限り簡潔明瞭に、代表者が資料説明する。

4)資料の説明は、火山活動の評価に係る資料についてのみ、簡潔に説明する。それ以外の資料については、できる限り説明を省略する。資料の作成に際して、活動評価との関係を最初のページに要約し、会議の席上ではそれと関連するデータのみを説明する。

（主な意見）

・時間配分をあらかじめ決めて、厳格に仕切るべきである。

・統一見解まとめの時間、特に、「てにをは」の修正に時間を要している。

・気象庁の資料が事前にわかれば、重複する部分については、省略できるので、事前に資料を見る機会ができるのはよい。

・電子化が進んでいることから、メールで事前に資料を事務局がとりまとめ、効率化する方向で今後検討する。(事務局)

5．活火山WG報告

・詳細は宇井委員から連絡会で報告いただく。10月には活火山のリストを出したい。２年内にランク付けをする予定。

6．その他

・砂防関連の委員を連絡会の委員に加えた件で、これは、気象庁が火山泥流や土石流についても取り組むと理解していいか。

・省庁再編で同じ国土交通省となったので、今後は、連携を強めていきたい。(事務局)

第89回火山噴火予知連絡会　議事録

日　時：平成13年５月28日（月）13時00分～17時40分
場　所：気象庁大会議室
出席者：会　　長：井田
　　委　　員：宇井、岡田、浜口、野津、藤井(敏)、渡辺、鍵山、平林、藤井(直)、須藤、石原、松島（代理：九大）、布村、須田、杉浦、村上、山根（代理：海保）、宇都、鵜川、内池、竹内、吉田、望月
　　臨時委員：武尾、土井、勝井、中村、津久井、大島、中田、小山、山岡、荒牧、寺田
　　オブザーバー：西宮（内閣府）、吉田（文科省）、松尾、小野塚、西村（以上地理院）、小野寺（海保）、篠原（産総研）、山本、福井（以上気象研）、牧（地磁気）、斉藤（岩手県・岩手大）、長葭、遠藤（以上岩手県）、宮崎、塚原、野口（以上東京都）、佐久間（三宅村）、井尾（静岡県）、前田（仙台管区気象台）、高橋、笹本（以上福島地方気象台）、酒井、小林（以上盛岡地方気象台）、小久保（東京管区気象台）、柿下（静岡地方気象台）、濱田、横田（気象庁）
　　事 務 局：山本、小宮、中禮、山里、土井、林、鴻山、碓井、西脇、高木